

246 I Q N B 類の合成 (1) 既報 I Q N B 前駆体 Q N B Triazene 体の調製

天野良平, 安東 醇, 平木辰之助 (金大医短) 森 厚文, 柴 和弘 (金大 R I セ) 松田博史, 久田欣一 (金大核)

すでにヨウ素 Q N B (I Q N B) は Eckelman らのグループにより数多くの基礎的研究が報告されている。我々は I Q N B の追試とさらに別な観点による研究を行う計画を持っている。そこで I Q N B の合成のための Q N B triazene 体の合成を行った。既報によると p-ニトロフェニル酢酸を出発し 4-アミノベンジールを経由する 10 段階を要する方法と、p-ニトロベンゾフェノンを出発する 7 段階の方法が提案されている。我々はこの二法を検討すると同時に、よりステップ数の少ない p-アミノベンゾフェノンを出発する方法を検討した。収率, 所要時間, 等を比較考察した。

247 元素の Thomsen-Bohr 型周期表での位置と癌親和性

安東 醇, 安東逸子 (金沢大医短)

我々は放射性金属化合物の癌及び臓器親和性とその元素の周期表での位置との関係について研究してきた。その結果, Thomsen-Bohr 型周期表と癌親和性との間に密接な関係を見いだした。即ち, 3d, 4d 又は 5d-軌道が満たされつつある元素のイオンは癌組織の周辺に炎症部に非常に多く集積すること, 癌細胞のライソゾームに多量に集積すること, 軟組織中で分子量 4 万ドルトン以上の酸性ムコ多糖に結合していることなどの特徴があった。Ga, In, Yb, Tm は d-軌道が既に満たされている元素であり, 我々が報告しているごとく, 癌細胞のライソゾームに集積は少なく, かつ分子量約 1 万ドルトンの酸性ムコ多糖に結合していた。